

《入間市納税貯蓄組合長賞》

町の笑顔

西武中学校 三年 網野 百花

私は笑顔が好き、みんながにこにこしていると私もっと笑わせたくなる。じゃあ、町の笑顔はだれが守っているんだろうと考えた。警察の方なのか消防士の方なのか元をたどると、すぐにわかるどちらも税金が関係している。町の安全・安心は、税金もつかわれている。この「税金」は町の安全や人の安全に、使われている。例えば、道路の整備や私達が通う学校などでは、授業をするための授業料やそのための教科書や机、いすは全て税金などでまかなわれている。大人になれば年金や介護という言葉がでてくる。

私が初めて税金という言葉を知ったのは、妹がまだ小さかった時のこと、何気なく、いつものように遊んでると、妹がいきなり話さないとと思ったら、震えていて、何が起きたのかわからなくなっていった。その時妹はけいれんを起こしていた。幸いにも、親がその場についてくれて、急いで救急車を呼んだので妹は何もなく、無事でした。このことをきっかけに税金を知ることができた。知ったと言っても言葉を知っている程度だった。それまで自分自身、深く知ろうと思っていなかった。興味がでたとき、調べていたら、インターネット

内のコメントで

「税金が高い、もっと安くしろ」などのコメントがあった。私も元はこのコメントのようなことを思っていた。税金がどこにつかわれているかもわからないのに払うのは嫌と思っていた。今では、産まれたときから、老後の亡くなるまで、税金があるおかげで楽しく暮らせている。アメリカのように医療にかかるお金は使う側が全額負担する国もある。このような国がほとんどだ。税金が嫌とされている方も、知らず知らずのうちにつかっている。私は文句を言うのではなく、今の状況に感謝すべきだとも思う。私が住んでるこの環境の人が笑顔でいられるのは、みんながみんなお互いを助けあっているからだと思う。私達中学生・高校生はこの現状を、いかに良い方向にもっていけるかが問わされている。私は少なくともこの笑顔なままの町でいたいと思う。